

インド変異種の感染防止策として、各自治体は学校の休校や登校停止などを決定。一部の学校では

それでも感染拡大は繰り返しており、現在は第4波が発生している状況である。4月30日までの累計感染者数は2929人、死者は35人で、3月26日以降は35日間、市中感染ゼロが続いていた。

ベトナムは世界的にも新型コロナウイルス感染症を抑え込んでいる国と言われている。常に早めの対応を取り、水際対策も徹底している。海外からの入国者には、入国前の陽性証明に加え、2〜3週間の強制隔離、1週間の自宅待機を課しており、ひたすら市中感染が発生すれば、隔離と検査を徹底し、感染拡大を防いでいる。



徳嶺 勝信



ベトナム

観光再生へ 接種者優遇

(VINACOMPASS代表)

同じく観光立県である沖縄もコロナ禍の中でも先を急ぎ準備していく必要がある。ぜひとも行政と民間が協力して取り組んでほしい。備えあれば患いなし。

オンライン接客に切り替えて対応している。酒を提供するレストランやカラオケ店、マッサージ店などの施設や、イベントにも制限をかけたおり、3密対策を一層強化している。

感染対策を徹底していることが安心感から、多くの国民は冷静に対応しており、特段、生活に不自由も感じていないようだ。

ただ、旅行会社やホテルの閉鎖、休館も続いており、特に今年に入って観光関連、外食事業への打撃が大きくなっている。

こうした中、ベトナム中部に位置するクアンナム省は、全国初のワクチンパスポートの試験導入に向けて準備を進めている。

クアンナム省は、日本人にゆかりのある世界遺産のホイアンがあり、ベトナムの中でも国内外から多くの観光客を受け入れている地域だ。観光を中心とした経済で成り立っているため、新型コロナウイルスの大きな影響を受けている都市である。そのため、いち早く安心して観光客を引き戻すためにワクチンパスポートを活用する。

同様に観光立県である沖縄もコロナ禍の中でも先を急ぎ準備していく必要がある。ぜひとも行政と民間が協力して取り組んでほしい。備えあれば患いなし。

今回は新里紹太・県ソウル事務所長です。